

まちたん ～まちのお宝探検隊～



後世に伝えたい宝物 ～久々野編～

久々野地域は市の南側、分水嶺の太平洋側に位置し、位山、船山の麓に広がり、飛驒川、無数河川、八尺川の三つの河川沿いに集落が点在している地域です。久々野町久々野には、国指定史跡である「堂之上遺跡」があります。約5500年前の縄文時代前期から中期にかけての集落跡があることから、幾度となくこの地に人々の営みがあつたことがうかがえます。

○果樹・高冷地野菜栽培

久々野地域は「桃源郷の里」の呼び名のとおり寒暖差の大きい内陸型の気候を生かした果樹栽培が盛んです。その歴史は戦後の食糧自給体制期に始まります。舟平地区と茂谷地区が果樹栽培の好適地であるという決定のもと、荒地を開拓し、その第一歩を踏み出しました。長野県に視察に行き、一から栽培方法を研究。苦労を重ね



たわわに実ったリンゴ

て現在に至っています。

現在、久々野産のリンゴは県内のリンゴ耕作面積の34.5%を占めており、一番の産地となりました。果樹園では、リンゴの他にモモやナシ、サクランボなどを栽培し、全国各地に発送されています。

久々野地域は高冷地野菜栽培にも適しており、トマト、ホウレンソウなどが栽培されています。三世代で農業をされる世帯も多く、後継者の育成も進んでいます。

○豊かな自然

清らかな流れの飛驒川(益田川)や無数の河川には多くの釣り人が訪れます。特に益田川は、全日本利き鮎会で準グランプリに輝くなど、美味い鮎が捕れることで有名です。



飛驒富士「船山」

「飛驒富士」と呼ばれる船山はこの地域のシンボルで、山頂から臨む星空は、目の前にいっばいに星が広がる知る人ぞ知る絶景です。また、高屹山(たかたわやま)かごやま山頂では、360度のパノラマが広がり、白山・御岳・乗鞍・北アルプスなどを見ることが出来ます。

○小屋名しょうけと有道しゃくし

この地域に古くから伝わる台所用品です。どちらも農閑期に作られたもので、しょうけはスタケという細い竹とマタタビ、ツタウルシからでき、サイズや形状も使い方に合わせて様々あります。



小屋名しょうけと有道しゃくし

有道しゃくしは、今では無人となった有道地区が発祥の地と言われ、朴の木をくり抜いて作る素朴なしゃくしで、くり抜いた刃の跡が美しく目を引きまします。どちらも後継者不足が課題となつているため、毎年講習会を開催し、後継者の育成を図っています。

○伝統行事「がんどうち」と「地蔵祭り」

渚地区と上組地区では、ひな祭りのころ子どもたちが家々を回る「がんどうち」という風習があります。昔は「雛さま見せてくれ、おそても褒める」と言つて雛さまを見に来て、飾つてあるお菓子を黙つて取つていったものですが、今ではあらかじめ菓子が準備してあり、子どもたちに渡していません。

橋場地区にある地蔵さまは、江戸時代

初期頃から伝わっているものです。当時疫病が大流行して多くの死者が出たため、村人たちが8月16日にこの地蔵さまをお迎えしました。すると、疫病が下火になり、以来毎年8月16日にはお礼をするために村人が集まってくるようになりました。この松明の行列が地蔵祭りの始まりと伝えられています。現在では、松明から提灯に代わり、お守りするの子どもたちに変わり、今日まで守り続けられています。

○久々野大花火

市内で唯一一尺玉(10号)が上がる納涼夏まつりの花火は、毎年お盆の8月15日に行われます。その歴史は正しくはわかりませんが、昭和24年頃に青年団が始めたこと、その後昭和55年から久々野地域の商工会青年部が毎年、資金集めから運営実行に至るまですべてを担っています。この花火を楽しみに帰省する方も多く、近年では地域外の方も多く訪れています。



久々野大花火

小さな勇気 きつとだれかの 大きな支え
11月25日(水)～12月1日(火)は、犯罪被害者週間です。